

10月度の観察記録

カテゴリ : 2019年

_MD_POSTEDON投稿者: [Zz.admin](#) 掲載日: 2019-10-13

2019年10月度の観察記録です。

```
Untitled Page .auto-style1 { text-align: right; } var gaJsHost = (("https:"  
== document.location.protocol) ? "https://ssl." : "http://www.");  
document.write(unescape("%3Cscript src='" + gaJsHost + "google-analytics.com/ga.js'  
type='text/javascript'%3E%3C/script%3E")); var pageTracker =  
_gat._getTracker("UA-3205823-1"); pageTracker._initData(); pageTracker._trackPageview();
```

2019年?10月?13日(日)9:30~12:40 作成: 田畑恭子 監修: 瀧川正子
写真協力: 伊藤義人氏

参加者: 大人?24名, 子ども?11名 天気: 晴 今年最大級の台風19号が前日の夜伊豆半島に上陸して関東方面へ抜けて行きました。広範囲にわたる記録的な大雨で多くの川が氾濫し、70人以上の死者が出ましたが、幸いにも名古屋では目立った被害は報告されず、この日は台風一過の晴天となりました。

里山の家での持ち込み観察項目: カラスウリ, ヤブマメとツルマメ, ミツバアケビの種, アケビの実, 平成17年のハンノキ湿地の甲虫調査の標本箱, ホシヒメホウジャク, ウシガエルのオタマジャクシ, モツゴ, オオスカシバの幼虫? 赤い**ヒガンバナ**の花が咲いていました。中には終わった花の先が実のように膨らんだものもありましたが、ヒガンバナにはほとんど種がつかず、球根で増えると説明がありました。近くの**ジュズダマ**は花が咲いているものと黒っぽく熟したものと両方が観察できました。昔、ジュズダマでアクセサリーを作ったという大人に教えられた女の子が、熟した実を集めていました。足元では**ポントクタデ**と**イヌタデ**が見られました。





ヒガンバナ ジュズダマの花 ポントクタデ ハンノキが何かに食べられてほとんど葉のついていないような枝もあり、よく見るとハンノキハバチの幼虫がたくさんついていました。3対の胸脚だけでつかまり、腹を裏返すようにしているのを見て、何のためにそうしているのか考えました。「威嚇している」「大きく見せている」「腹脚をトゲが生えているように見せている」などの意見が出ました。手を近づけるとその姿勢をとっていたので、威嚇の意味があるのかもしれません。道沿いに咲いているキクイモの花を見て、昔これの芋(地下茎が肥大化したもの)を食べたことがあると言う参加者がいて、根こそぎ引き抜いてみると小さな芋がついていました。醤油漬けや味噌漬けにして食べることができるそうです。





ハンノキハチの幼虫 キクイモの花 キクイモの根 来ていました。幹をかじっているように見えたが、今は巣を作る時期ではないためかじって樹液を出しているとのことでした。コバネイナゴが木の幹にとまっていた。通常イナゴの仲間は近づくと姿を隠す動作をするのにこれはほとんど動かないので、日向で身体を暖めているのではと推測しました。畑では数人が作業をしていました。

せせらぎ沿いのオオスズメバチが





オオスズメバチ コバネイナゴ 畑の様子

ケースに入れました。アオバアリガタハネカクシは体液に毒があり、うっかりつぶして肌に付着すると皮膚炎を起こすので注意が必要と説明がありました。つどいの丘に置かれた大きな石臼は子どもが二人がかりで動かそうとしましたがビクともしませんでした。辺りにはキリの実が落ちていて、中を見ると小さな種がたくさん入っていて白い膜状の翼が見られました。

水辺で高松空がガタハネカクシを見つけて





アオバアリガタハネカクシ 石臼 キリの実

参加者に見せるとハスジカツオゾウムシと教えてくれました。翅の一部が欠けているようでした。足元の落ち葉の中からセンチコガネが見つかりました。最近センチコガネに夢中になっているという子どもが色を確認していました。センチコガネは翅の色に個体差があり、コレクターがいるそうです。近くの倒木にカワラタケがついていました。裏側にひだがないのが特徴とのことでした。

子どもがゾウムシを捕らえたのでゾウムシに詳しい





ハスジカツオゾウムシ センチコガネ カワラタケ
ラタマホシクサの中にサワギキョウ、スイランが咲いていました。たくさんのミゾソバも花盛りで、イチモンジセセリが吸蜜しにやって来ていました。

続いて湿地の植物を観察しました。満開の



シラタマホシクサ スイラン ミゾソバで吸蜜するイチモンジセセリ

田んぼではイネの穂がこう

べを垂れて刈り取りを待つばかりになっていました。品種はコハルモチという餅米とのことです。参加者は一粒ずつ籾を取って、籾殻を剥いて中の玄米を取り出して胚芽の部分を確認しました。また籾の先の芒(のぎ)が茶色いことが紹介されました。その玄米を食べた参加者は味が無いと言っていました。続いて食べ比べた去年栽培した古代米の玄米は比べ物にならないほど風味が強く美味しいとの声が上がりました。



籾殻を剥いて玄米を取り出す コハルモチの芒(のぎ) コハルモチの籾(左)と玄米

この日は成長

したジョロウグモやナガコガネグモの巣を数多く見かけました。前日の台風接近による風の影響はあまりなかったようです。参加者の女性の目の前にクロコノマチョウがヒラリと姿を現わして驚かせました。

エル,カゼクサ,ヌカキビ,ヒメカメノコテントウ,クロコノマチョウ
?